

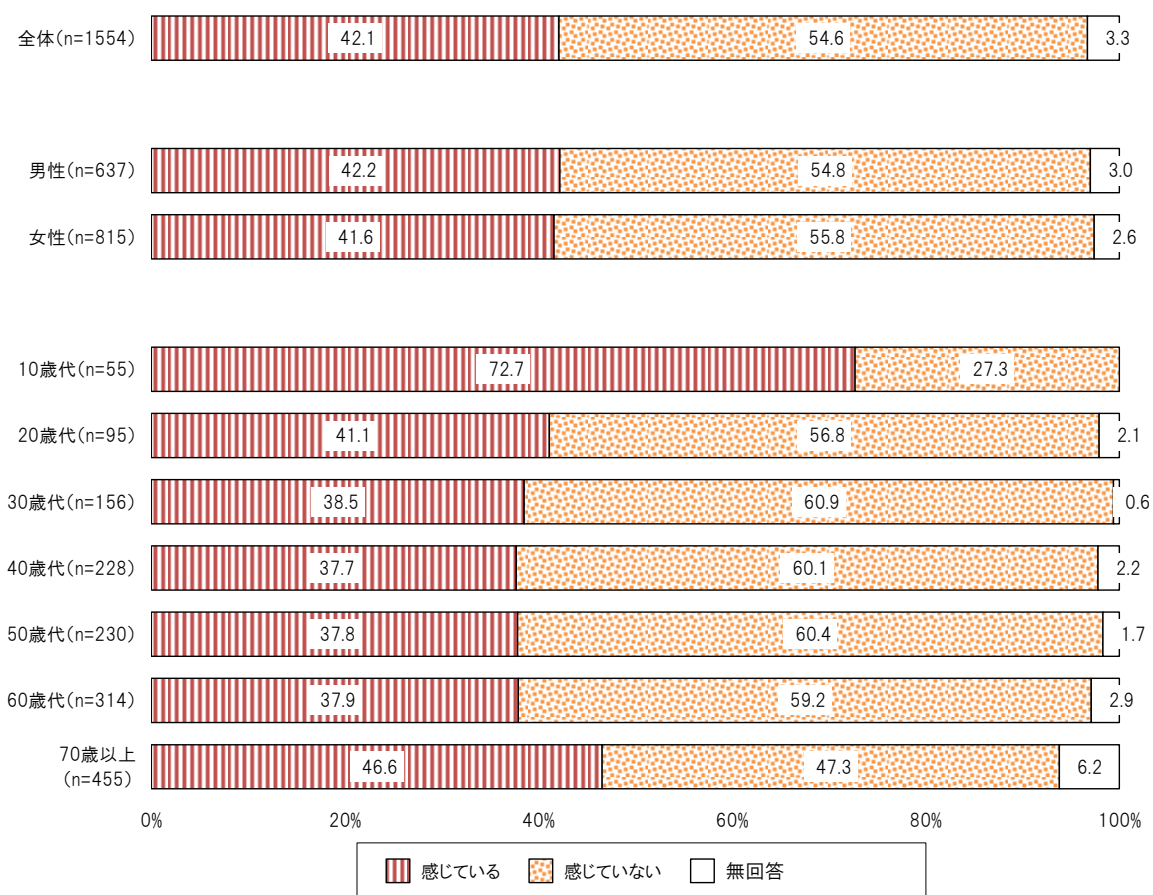
## 6. 交通政策について

### 問21 あなたは移動手段に不便を感じていますか。(〇は1つだけ)

「感じていない」が54.6%で最も高く、ついで「感じている」が42.1%となっている。  
性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、20歳代から60歳代までは比較的似た傾向がみられるが、10歳代及び70歳以上で移動手段に不便を「感じている」割合が高くなっている。

#### 問21 移動手段に不便を感じているか



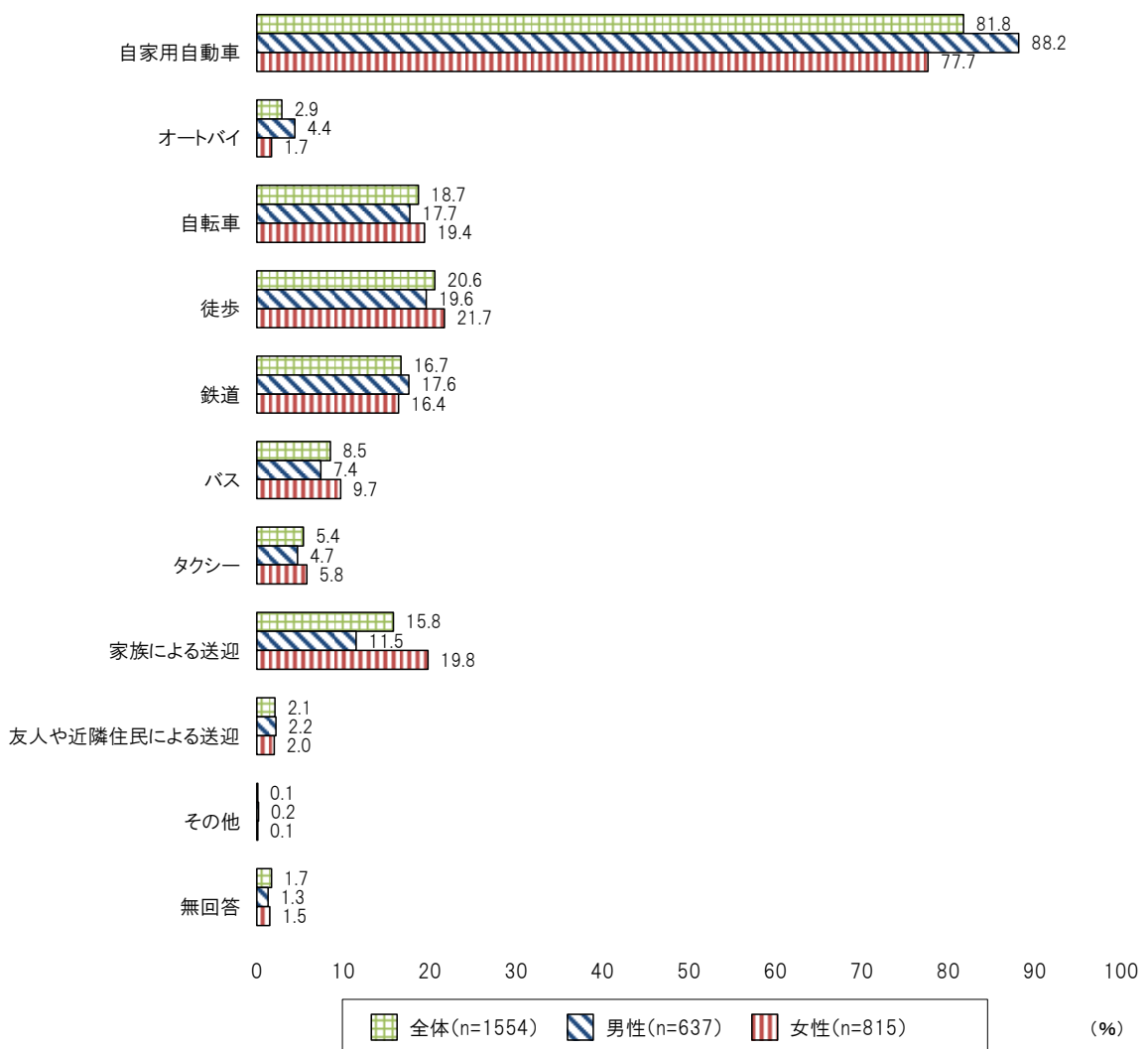
問22 あなたが普段お出かけする際の主な移動手段をお答えください。(〇は3つまで)

「自家用自動車」が81.8%で最も高く、ついで「徒歩」が20.6%、「自転車」が18.7%となっている。

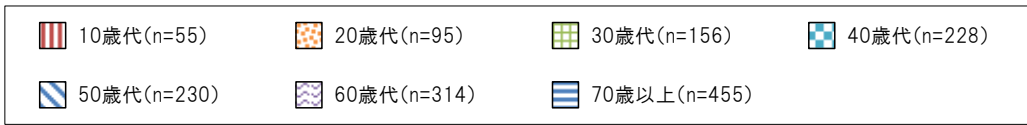
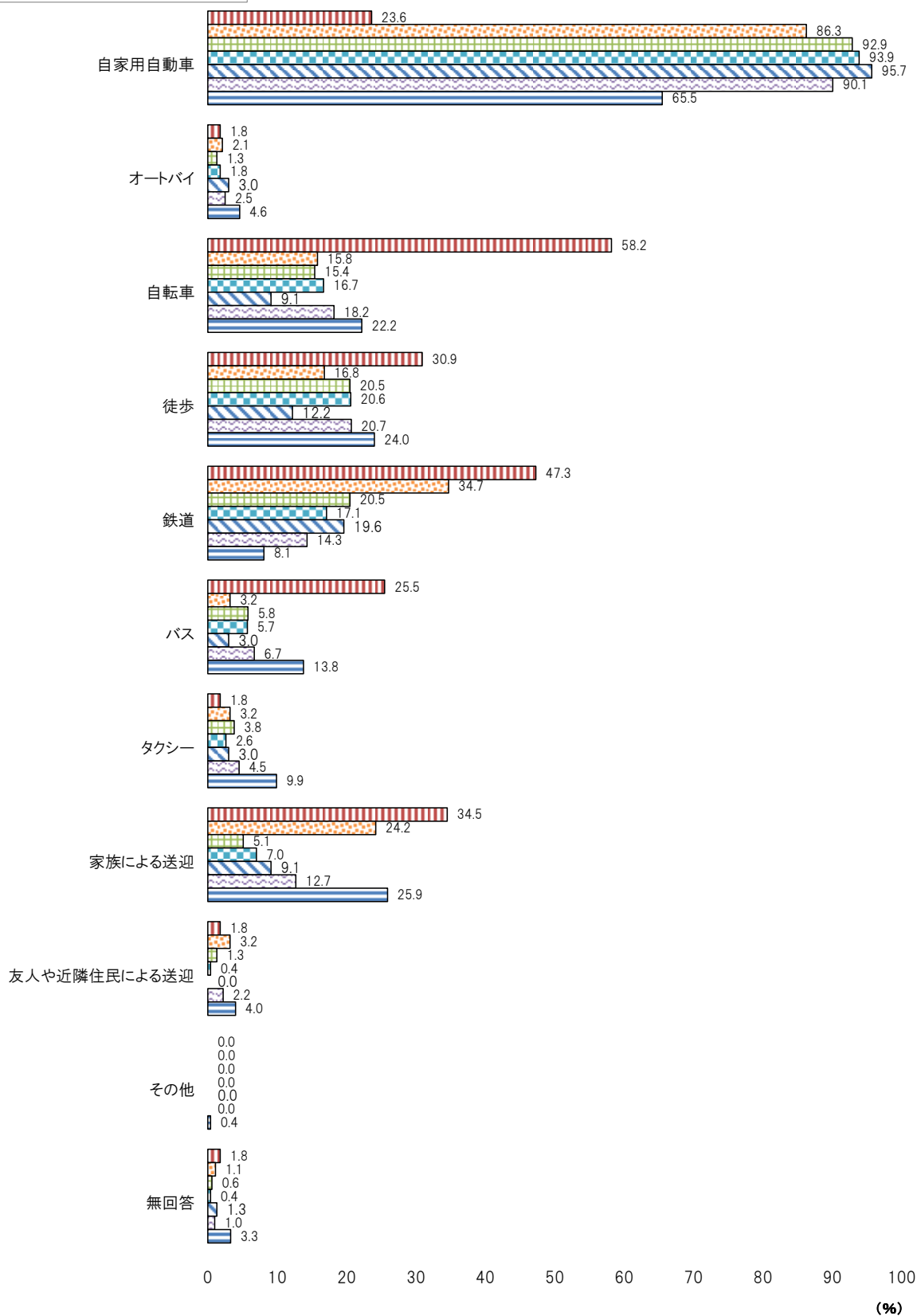
性別にみると、男女で差が大きいものは、「自家用自動車」が男性88.2%、女性77.7%で10.5ポイント男性の方が多くなっている。一方、「家族による送迎」は男性11.5%、女性19.8%で8.3ポイント女性の方が多くなっている。

年代別にみると、10歳代を除いて最も割合が高いのは「自家用自動車」となっており、10歳代では「自転車」の割合が最も高くなっている。2番目に高い項目は、10歳代、20歳代、30歳代、50歳代では「鉄道」となっており、30歳代、40歳代、60歳代では「徒歩」となっている。70歳以上では「家族による送迎」となっている。なお、30歳代の2番目に多い項目は2つの項目が同率であった。

問22 普段出かける際の主な移動手段



問22 普段出かける際の主な移動手段



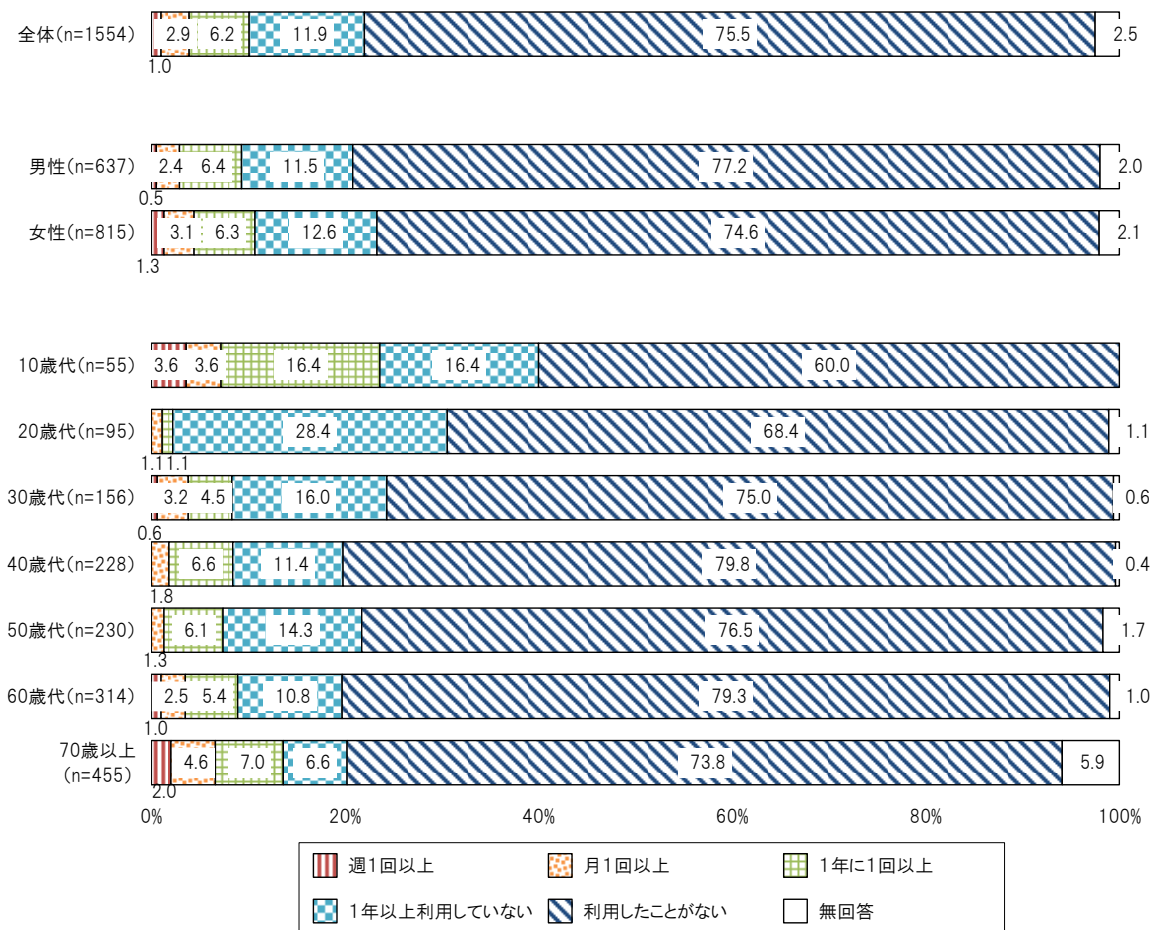
問23 鈴の音バスなど市が運営するコミュニティバスの利用頻度をお答えください。(〇は1つだけ)

「利用したことがない」が75.5%で最も高く、ついで「1年以上利用していない」が11.9%、「1年に1回以上」が6.2%となっている。

性別にみると、「週1回以上」、「月1回以上」、「1年に1回以上」の合計の割合は、男性が9.3%、女性が10.7%で、1.4ポイント女性の方が高かった。

年代別にみると、「利用したことがない」の割合は、10歳代、20歳代が60%台であったのに対し、30歳代以上はいずれの年代も70%台となっており割合が高くなっている。

問23 鈴の音バスなど市が運営するコミュニティバスの利用頻度

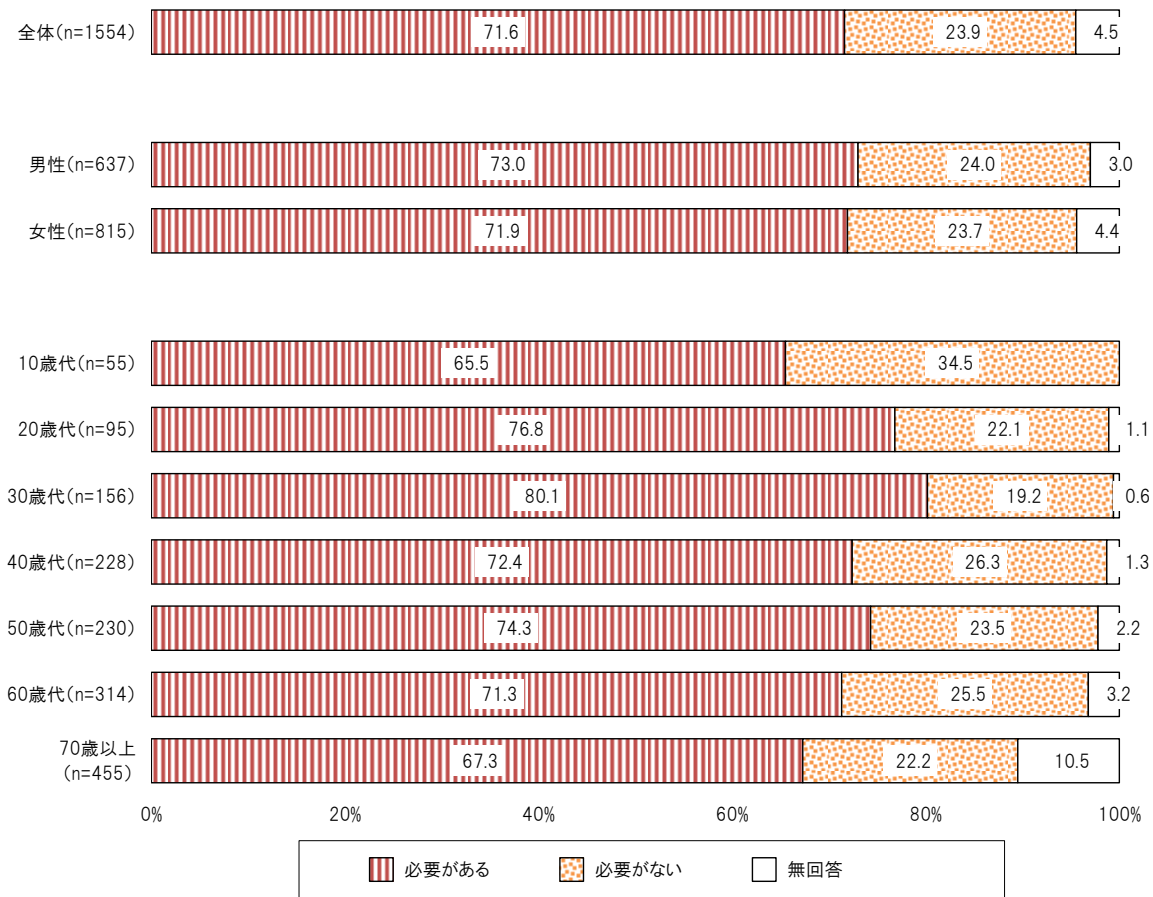


問 24 コミュニティバスは利用者数が減少し、運行経費のうち大半（1 億円以上）を税金で賄われていますが、有用性や継続性などの観点から見直しが必要であると思いますか。（〇は1つだけ）

「必要がある」が71.6%で最も高く、ついで「必要がない」が23.9%となっている。性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「必要がある」の割合は、最も高い30歳代の80.1%と最も低い10歳代の65.5%の間で14.6%の差はあるものの、いずれの年代においても65%以上が「必要がある」としている。

問24 有用性や継続性などの観点からコミュニティバスの見直しが必要であると思うか



【問 24 で「1. 必要がある」とご回答いただいた方にお聞きします。】

問 25 コミュニティバスから転換を図るなら、どのような形で税金を投入することが望ましいと思いますか。(〇は1つだけ)

「タクシーの活用（デマンドタクシーの普及やタクシーチケットの導入など）」が 61.0%で最も高く、ついで「住民主体による移動支援（住民同士の協力によるお出かけ支援）」が 23.5%、「その他」が 7.9%となっている。

性別にみると、「タクシーの活用（デマンドタクシーの普及やタクシーチケットの導入など）」の割合は、男性が 55.9%であるのに対し、女性では 65.2%であり、女性の方が 10 ポイント近く高くなっている。

年代別にみると、「住民主体による移動支援（住民同士の協力によるお出かけ支援）」の割合は 10 歳代を除いて年齢が低いほど割合が低く、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。10 歳代では「自転車の活用（シェアサイクルなど自転車の貸し出しサービス）」が 22.2%と高くなっている。

問25 コミュニティバスから転換を図るなら、どのような形で税金を投入することが望ましいか

